

～愛知県チャレンジ女性応援モデル事業～

# 命のつながり <sup>ひと</sup> <sup>ひと</sup> 男と女の役割

= 生物多様性(COP10)と男女共同参画 =

## 実施報告書



地域開発みちの会

# 1. 事業の概要

## (1) 事業名

愛知県チャレンジ女性応援モデル事業

命のつながり <sup>ひと ひと</sup> 男と女の役割 = 生物多様性(COP10)と男女共同参画 =

## (2) 事業目的

- ① 生物多様性条約(COP10)前文の「生物の多様性の保全及び持続可能な利用において女子が不可欠の役割を果たすことを認識し…」を自覚すること。
- ② 生物多様性の重要なキーワードは、「個性」と「つながり」です。  
それぞれが「かけがえのない」存在として「自分らしく」生きられるとき、その「つながり」はより強固なものとなります。
- ③ 「生物多様性(COP10)と男女共同参画」の連続セミナーを受講し、また事例集を参考に、この事業に参加する地域の女性が「命のつながりと男と女の役割」を理解し、資格取得や地域活動にチャレンジすることを支援します。  
そのために、第1ステップでは女性の消費行動によって地域が大きく変わる事を自覚し、セミナー参加で地域の女性が「生物多様性について・子育て環境について」楽しく学べるようにしました。  
第2ステップとして女性が地域の中でいきいきと生きる為、さまざまな場面で活躍し発言できる為のスキルアップとして、ワークショップを企画。  
最終ステップとして「自然観察員」「ネイチャーゲーム指導員」「環境カウンセラー」等の資格取得にチャレンジできる女性の育成をし、地域活動を始めるのに役立つようにチャレンジ事例集を発行することで、より身近なところでのチャレンジ女性のお手本を示しました。

## (3) 事業内容

- ① セミナー1 「COP10と女性の役割」ーつながりを考えようー  
講義とゲームとワークショップ  
講義内容(COP10と女性の役割)
- ② セミナー2 「“食”…生命をいただく」  
講義と調理実習  
講義内容(地産地消)
- ③ セミナー3 「子どもと考える生物多様性」  
親子・家族でネイチャーゲーム
- ④ セミナー4 「ホテルから学ぶ生物多様性」  
講義とワークショップ  
講義内容(ホテルの生きられる環境は…)
- ⑤ フォーラム「命のつながり男と女の役割-生物多様性(COP10)と男女共同参画」  
セミナー報告・パネルディスカッション・講演会  
講演会 「一歩ふみだしてみませんか？」 広岡たつみ 氏
- ⑥ 環境に関する女性のチャレンジ事例集「いい人 見つけた！」発行

## 2. 事業の実施結果

### (1) セミナー1 「COP10と女性の役割」

日時： 2009年9月5日(土) 13:30～16:00

場所： ウィルあいち

参加人数： 65人 他 託児 3名

講師： 浅野 智恵美さん(環境カウンセラー等)

スタッフ会議回数： 6回

みちの会スタッフ人数： 7名



グループ発表者と浅野さん

#### 〔趣旨〕

チャレンジ女性応援モデル事業としての第1回セミナーを行うに当たり、まず、生物多様性条約COP10を知り、それを女性のチャレンジに生かす方法の概説を考えました。また、COP10をひかえた愛知・名古屋の活動状況と女性のチャレンジのチャンスを考える参考にもしたいと思い、環境分野でチャレンジを続けていられる浅野さんと今回のセミナーの趣旨を良く話し合っって講師をお願いしました。

#### 〔内容〕

##### － 講義 －

現在地球には約175万種の生物がおり、未確認のものを含めると約3,000万種とされています。そのうち4万種が1年に絶滅しています。生物は、互いにさまざまな連鎖の中で生存し、ピラミッドの底辺が崩れると上部も絶滅します。生物の多様性とは、多くの種類の生物がいること、それらがつながって生態系の豊かさやバランスが保たれていること、また、種の中の遺伝子の多様性が過去から現在、そして未来へとつながっていることです。

人間は、多様な生物を利用して生活の基盤を作ってきました。絶滅の原因も作っていますが、多くの生物と共存共栄してきた歴史もあります。その中で、特に女性の果たした役割は大きく、これからも、生物の生命と人間の暮らしを持続させていく社会作りに、女性の参画は重要です。生物多様性条約の前文には、女性が全てのレベルで役割を果たすことが必須だと述べられています。

##### － ワークショップ －

いろいろな生物の絵を描き、その性質を添えた可愛い「ピンチくん」カードを使って、ワークショップを行いました。参加者の引いたカードの絵の生物を、在来種か外来種で分けていきました。よく知っている生物、知らない生物の絵がありました。最近になって外来種が増えてきたことが、大変よく分かりました。また、よく知っているつमりの生物も、在来種はもう絶滅、あるいは絶滅しそうなことにも脅威で、参加者は、危機感を感じました。

#### 〔まとめ〕

日常の生活の中では身近なものと思えなかった生物の多様性が、いかに人の生命や、暮らしを支える重要な問題であるかを理解しました。そして、振りかえってみると、生物の多様性を損ねず、持続可能な形で利用を続けるチャンスはいっぱいあるように感じられました。この後のセミナーにつないでいきたい趣旨は、十分果たせたと評価できます。

※メーテレの取材があり、夕方のニュースで放映されました。

## (2)セミナー2 「“食”…生命をいただく」

日時：2009年10月3日(土) 10:00～13:00

場所：南知多町保健センター

参加人数：50人(内 男性参加者10名)

他 託児3名 託児者 3名

講師：久村 祥子さん(栄養と料理インストラクター等)

スタッフ会議回数：11回

みちの会スタッフ人数：5名



エプロンにも料理にも慣れてくださいね

### 【趣旨】

毎日口に入れる物を、今一度見直し、作る人、育てる人、獲る人、自然の恵み、あらゆる全てのものに感謝の気持ちを表す言葉「いただきます」「ごちそうさま」の意味を意識し、生命のつながりになる原点を考えてみました。

講師に、地産地消にこだわったレシピをお願いし、男女共同参画の視点から女性のチャレンジのために男性の理解が必要と、参加を呼びかけ10名の男性の参加がありました。

### 【内容】

#### － 講義 －

今は、新栄養失調時代といわれています。これほど食べ物に豊富な時代なのに何故か？好きな物しか食べない、朝食を食べない子供も増えている現状、バランスの良い食事がとれていないからです。コンビニ弁当、インスタント食品は高カロリー、高脂肪、高塩分、多くの食品添加物と問題を多く含んでいます。農薬、輸入食品、遺伝子組み換え食品などの、食の安全についても危機を感じます。

#### － 調理実習 －

“知多の芋いっぱい調理実習”と銘打ち、地元の食材を使って、じゃがいも餅、里いも餅、ヘルシーサラダ、長いも茶巾と4種類のメニューにチャレンジしました。

じゃがいもや里いもは、それぞれ茹でてつぶし、片栗粉を加えて平らな餅にし、フライパンで両面を焼く。あとバター、醤油などで焼き目をつけてできあがり。おいもというよりも、まさにお餅！素朴な味が好評でした。ヘルシーサラダは、ひじき、わかめ、細寒天を水でもどし、水気をとり小口切り。玉ねぎは薄切り、しょうが、ネギはみじん切り。醤油・みりん・砂糖・いりごまを調合して、具材を和え、パプリカ、しらすを上盛りにしてできあがり。しっかりした味でシャキシャキ感があり、さわやかなサラダでした。長いもから、上品でおいしい茶巾しぼりが作れることも驚きでした。

参加者は、真剣に食を考え、みんなでおいしくいただく心を共有できました。

### 【まとめ】

地産地消によって産地と食卓をつなぐことは、生産者と消費者が互いに理解を深めることにつながり、また、地産地消・旬産旬消の推進は環境とも大きな関係を持ち、豊かで健康的、文化的な食生活の実現につながると考えられます。生物多様性のつながりに関心を持ち、日常の生活の中で男性女性が仲良くお互いのできることをし、生物多様性に関心を持ち、地域活動を広げていきたいと思えます。

※知多半島ケーブルネットワークの取材があり、翌日から一市三町(半田・武豊・美浜・南知多)で放映がありました。

### (3)セミナー3 「子どもと考える生物多様性」

日時： 2009年11月7日(土) 10:00～12:00

場所： 知多市佐布里緑と花のふれあい公園

参加人数： 100人

講師： 青山裕子さん(ネイチャーゲームトレーナー)

吉鶴弥生さん(ネイチャーゲーム指導員)

スタッフ会議回数： 7回

みちの会スタッフ人数： 5名



おしえて？ わかった？

#### 【趣旨】

親子でゲームをしながら生物多様性の意義と保全について考えました。

家族がともに参加することにより、女性の地域活動・環境活動参画への理解を深め、チャレンジする女性に対する家族の応援を期待できます。

連続セミナー唯一のフィールドワークで、自然に親しむなかで、子ども達に自然の持つ大きな力、生物多様性の大切さを伝えたいと思いました。

#### 【内容】

##### - ネイチャーゲーム -

見る・聞く・触る・嗅ぐなど五感を使って自然を体験する活動で、自然や環境への理解が深まるとともに、生命を大切にする心や他者への思いやりの心が育まれます。

##### ・「動物クイズ」

グループ対抗で一人一問ずつ、身体の特徴や生態などをスタッフに質問し、その答えからどんな動物かをグループのみんなで考えました。

##### ・「生き物ループ」

与えられた自然環境や生き物の絵カード5枚を使い、生命のつながりをひとつのストーリーにまとめました。

##### ・「ネイチャービンゴ」

公園の中を「くもの巣」「自然の落とし物」「鳥」「きのこ」など、色々探して歩きました。青空では、ちょうど鷹が何羽かのカラスに襲われて逃げる様子が見られ、足元にどんぐりや鳥の羽を見つけて、普段なら見過ごしてしまうようなものを、ネイチャーゲームの指導によって気づかされました。

#### 【まとめ】

「自然の中にはいろいろな命があり、私たち人間も自然の中の一部である。」と感じた参加者は多かったようです。参加者は会員の市町にとどまらず、三河地方からもありました。その殆どは初対面の人たちでしたが、どのグループもおとなも子どもも隔てなく積極的に提案し、調整し、纏め上げる様子は活気とさわやかさに溢れていました。

今回は新型インフルエンザによる小学校の学級閉鎖などで、小学生の参加が見込みより少なく、幼児の親子の参加が多くありました。

又、当初は女性の別プログラムを考えていましたが、チラシに織り込まなかったせいで、母子の参加が多く、子どもから母親を離すことが出来ず、別プログラムを断念しました。このことは結果的に、母子やファミリーがいっしょに自然と深くかかわることになり、良い結果となりました。

※中日新聞の取材があり翌日掲載されました。

#### (4)セミナー4 ホタルから学ぶ生物多様性

日時：2009年11月21日(土) 13:30～16:00

場所：半田市福祉文化会館(雁宿ホール)

参加人数：50人

他 託児 3名 託児者 2名

講師：榊原 靖さん(環境カウンセラー)

スタッフ会議回数：13回

みちの会スタッフ人数：5名



なぜホタルは減ったのか

#### 【趣旨】

講義を聴くことで、生物多様性保全の必要性に気づき、また、次世代の子どもたちのためにわたしたち達が、できることは何かをワークショップで話し合いました。

さらに、生物多様性保全にチャレンジする女性の気づきの場となるようにしました。

#### 【内容】

- 阿久比町のホタル共生への取り組みの紹介 -

- 講義 -

ホタルは、水辺環境の再生の象徴、指標生物といわれ、シンボルとして取り上げられることが多いです。また、人が創り出した場に生活する身近な昆虫として「人里昆虫」と呼ばれたり、ホタル見物・ホタル狩りの生活風景においては「文化昆虫」とも呼ばれ、象徴的な価値を賦与されている生き物(「象徴的環境財」)です。

ホタルは何故減ったのでしょうか？ホタルの一生のサイクルを考えてみれば、生息地の環境の変化がホタルの減少に大きく起因していることがわかります。一般的に生物多様性を脅かす要因には、開発や乱獲、生息地の減少、手入れ不足、地球温暖化、外来生物の繁殖などさまざまなものがあります。現在、人類の人為的活動が原因で6度目の大量絶滅の危機が進行しています。人は生来的に、生命もしくは生命に似た過程に対して関心を抱く内的傾向(バイオフィリア)があります。神秘さや不思議さに眼を見はる感性(センスオブワンダー)を大切にしたいです。

- ワークショップ -

5グループでそれぞれ発表者を選出した後、まず自己紹介として、名前と講義の感想または環境について今気になっていることを一つ話してもらいました。次に、以下の2点について話し合いました。

①次世代に残しておきたい環境 ②私たちに出来る事

その後、グループごとに発表者が話し合いのまとめとセミナーの感想を述べました。

#### 【まとめ】

蟻を見てビックリする子がいるほど、子どもが自然を知り体験する機会が減っています。

まず、大人が自然や環境に対して関心を持つことが大切であり、そこから環境保全に向けて、日常生活の中で具体的に何が出来るかを考え、実践していくことが重要であると強く感じました。

また、若い世代の人たちも話し合いの場に引き込んで一緒に考え、問題に取り組んでいくことも大切であると思いました。

## (5)フォーラム

日時：2009年12月13日(日) 13:00～16:00

場所：知多市勤労文化会館(やまももホール)

参加人数：320人

内訳(来賓45名 一般参加者217名 会員58名)

他 託児 4名 託児者 2名

講師：広岡たつみさん(石川おんなのスペース副代表/石川県議会議員)

パネリスト：広岡たつみさん(フォーラム講師)

浅野智恵美さん(セミナー1講師)

大川 秀樹さん(連続参加者)

コーディネーター：石井 久子(みちの会会員)

セミナー報告者：1 浅沼 律子さん(セミナー参加者)

2 石黒真須美さん(セミナー参加者)

3 増田 純子さん(セミナー参加者)

4 安藤 英代さん(セミナー参加者)

スタッフ会議回数：9回

みちの会スタッフ人数：48名

### 【趣旨】

女性の環境に関する地域活動へのチャレンジを応援するため連続セミナーを開催してきました。フォーラムはその締めくくりとして「命のつながり」と「男女共同参画」について参加者ともに考え「一歩踏み出そう！」と参加者に対して啓発するものです。

### 【内容】

#### - ウェルカム朗読 -

- ・宮沢賢治「虔十公園林」
- ・「ちきゅうのためにわたしができる10のこと」  
(各連続セミナーでも朗読しました)
- ・金子みすず「私と小鳥と鈴と」

#### - 開会式 -

主催者挨拶 愛知県男女共同参画室長 岩田敏子  
来賓 挨拶 知多市長 加藤功  
知多市議会議長 竹内司郎

#### - セミナー報告 -

4回の連続セミナーが、どのように行われたのか、各セミナーの様子を3分間にまとめ、会場の皆さんに参加者の声で報告しました。

会場には当日の様子がスライドで映し出されました。



当日の会場の様子

## - パネルディスカッション -

3名のパネリストによる「命のつながり 男と女の役割」についてディスカッション。

- ・こうあるべきと決め付けないで、グラデーションの部分があっている。
- ・人間も生物。みんな仲間、ともに生きていくという姿勢が大切。
- ・若い人や子どもにどう伝えていくか…。ゲームなどで理解を深める方法もある。
- ・まず関心を持って、自分を好きになることから決め付けないで始めよう。
- ・声に出そう。思っていることは声にして伝えていこう。周りの人も思っているかもしれない  
活発なディスカッションが行われ、以上のメッセージが発せられました。



パネルディスカッションの様子：コーディネーター 石井久子、マイクを持つ 広岡たつみさん、中央 浅野智恵美さん、右端 大川秀樹さん

## - 講演会 -

演題『一歩ふみ出してみませんか』： 広岡たつみ氏

(講演内容)

夫(広岡守穂)との生活で自分だけ社会から取り残された気分になっていた時期がありました。5人の子どもの育て38歳から編集の仕事をはじめ、40代半ばに女性の自分育ての雑誌を発行することになり、取材を通じて全国に友人が出来ました。その全国の友人たちのチャレンジの様子や、自分の仕事(石川県議会議員)での葛藤などを話され、いつも後先を考えずとりあえず「一歩踏み出してみよう」と進んできました。

「皆さんも、一歩ふみだしてみませんか？踏み出してみると、立ちふさがっていると感じていた壁もそんなに大きな壁ではなく、結構進めますよ」とメッセージを発信して締めくくられました。

## - チャレンジ事例集の紹介 -

事例集の発行にいたるまでの経過が紹介されました。

### 【まとめ】

前日からの準備で当日をむかえ、さらに、会場設営・リハーサル等みちの会会員が積極的に行動し、参加者を迎えた。主な参加者は知多市50名 常滑25名等、開催市に近いほど参加者が多い。然し三河地方からも10名ほどの参加がありました。

又当日参加もあり、資料の部数が足りなくなると危惧しました。

みちの会主催の[議員と語る会]に参加された、来賓の議員から「生物多様性と男女共同参画は個性とつながりであるとはよく分かった」との声。政策決定の場に生かされることを望みます。



## (6)環境に関する女性のチャレンジ事例集「いい人 見つけた！」発行

発行日：2009年12月13日

編集委員：みちの会会員10名

スタッフ会議回数：6回

### 【趣旨】

この事例集は環境活動や地域活動にこれからチャレンジする女性に対して、これからチャレンジしようとする女性の指針となるように、みちの会の会員の周りにはいる、環境に関する分野で、すでに活躍している女性を取り上げた事例集です。

環境に関する活動をしている女性の情報収集を行い、事例集への寄稿をお願いし、編集し発行。編集に当たっては、寄稿者の[チャレンジのきっかけ][どのようにスキルアップしたか][女性へのアドバイス][問い合わせ先]を入れました。

### 【まとめ】

『会員の周りに居る環境を考えてチャレンジしている女性を「いい人 見つけた!」と取り上げてみました。日常的に黙々と活動している女性が、チャレンジしようとする女性に勇気を与えてくれることは言うまでもありませんが、今一步を踏み出せない女性に「こんな仕事もあったの?」「こういう事をやってみようかな」「挑戦してみよう!」と感じてもらえたなら私たちの喜びはひとしおです。

あなたの周りにもきっと「いい人 見つけた!」と思える人が居ると思います。そんな「いい人 見つけた!」を感じている人は、あなたのチャレンジを待っています。

私たち、みちの会の会員は、いつの日か、あなたが「いい人 見つけた!」と言われる事を願っています。』 事例集発行にあたってより



フォーラム当日の配布物

## 3. 事業実施の効果

- ① 講義・ワークショップ・フィールドと話を聞くに留まらず、自ら行動し考えを述べる場の提供をしたことにより、参加者の積極的な意見交換ができました。
- ② 「楽しく」を基本に、五感「見る・聞く・触る・味わう・嗅ぐ」を使ったフィールドで実際に体験することで、環境について親子で深く考え、女性のチャレンジに対して夫・子・家族等が理解を示す一助となりました。
- ③ 環境を考えることにより、持続可能な生産と消費行動の推進に寄与しました。
- ④ 生物多様性と男女共同参画が理解され、あらゆる場面への男女共同参画の推進に役立つ素地ができました。

- ⑤ セミナー報告などは参加者が行い、すでにチャレンジしたと言えます。
- ⑥ 事例集の発行により、地域で活躍する女性を取り上げ、それに続く女性の啓発につながりました。
- ⑦ 講座開催により参加者から「家族で環境や男女の役割などについて話す機会が増えた」の声、上がっています。
- ⑧ 支援セミナーへの応募の決意、ピンチ君の体験から自分の住む町の生き物カード作りなどを考えて、すでに行動している参加者がいます。

## 【参加者の声】

### - セミナー1 -

「講義の中で、生物多様性保全のために、女性の役割を認識し、政策決定と施行に女性の完全な参加が必要である、とする前文があることを知り、大きく心が揺さぶられました。

自分にも何か出来ることはないか？ そう思ったのです。自身の周りの自然や資源に関心を持つというのは当然のこととして、そうした個人的な行動から一歩踏み出して、社会へつながる行動が必要だと感じました。」

### - セミナー2 -

「産地と食卓をつなぐことは、生産者と消費者が互いに理解を深めることにつながり、また、地産地消・旬産旬消の推進は環境とも大きな関係を持ち、豊かで健康的、文化的な食生活の実現につながると考えられます。生物多様性のつながりに関心を持ち、ふだんの生活の中で男性女性が、互いに仲良く協力し合い、地域活動を広げていきたいと思います」。

### - セミナー3 -

「自然の中にはいろいろな命があり、私たち人間も自然の中の一部であると感じました。それぞれが違いを認め合い支えあって生きていくことが、今回のテーマではないかと感じました。

これからは、子どもと散歩する機会を大切に、いろいろ話したり観察しながら自然について考えていきたいと思います。あの日、参加した子ども達の目が、みんないきいきと輝いていたのが印象的でした。」

### - セミナー4 -

「私は、今回の講座を受けるまで、生物多様性という言葉も知らず、ホテルが何を食べ、どう成長していくのかも知りませんでした。阿久比町の学校のように授業に組み入れ、ホテルだけでなく、親子で身近な自然に興味を持つことが必要なのではないかと思います。

まず知ること・体験すること、そして、どうすればいいか考え、学ぶことが大切だと思いました。

親から子へ、そして地域へ、一人一人が考え動き出すことで、劇的には変えられなくても、小さなものが大きなものになり、最終的には地球規模の広がりになっていくことを望んでいます。そんな気づきの中で自分がこれから環境に配慮した生き方をしたいと考えました。」

### - フォーラム -

「広岡先生の話聞いて、気づいた人が声を出して行かないと周りの人に伝わらないと言うことを改めて感じました。自分は年だからと踏み出せないでいましたが、今からでも、きちんと声に出してやってみようと思いました。元気をいただきました。ありがとう！」

「フォーラムに参加してから、新聞で生物多様性の文字が、目に入るようになりました。生物多様性は一みんなちがってみんないいーということを家族で話し合う機会が増えました。」

## 4. 今後の課題及び展開

### (1) 課題

- ① 委託事業ということで、時間と会員の意欲と、委託料によってできる範囲が狭められるジレンマ。セミナー会場においても、もっと検討する時間があれば、又違った啓発活動ができたと考えられます。事実「わが町でやってほしかった」との声も聞かれました。
- ② 父親の参加が少なかった事と、新型インフルエンザのため学級閉鎖等で小学生の参加を見越していたセミナー3「子どもと考える生物多様性」については幼児の参加が多く当初の見込みとは異なりました。
- ③ 事例集の製作においては、予想の4・5倍の時間と労力がかかり、苦勞しました。

### (2) 今後の展開

- ① 次年度以降には、再チャレンジする女性たちをサポートし、地域で活躍できる女性の育成を行います。特に人気のあった「ネイチャーゲーム」については「ネイチャーゲームリーダー養成講座」等を予定しています。
- ② COP10に関わる様々な事業に対して、みちの会と参加者が積極的に関わっていきます。
- ③ 議員と語る会などを積極的に行い議員と連携し、環境政策決定の場に声を出していきます。

## 5. その他

### (1) 告知方法

チラシ配布 5000部 知多地域5市5町 3000部 名古屋市 200部 愛知県関係機関 1000部  
その他(女性団体等関係団体・講師関係団体) 800部

掲載依頼 知多市広報・中日新聞 HP掲載 愛知県・みちの会・市民活動センター(知多・東海)

取材依頼 名古屋テレビ・知多地域ケーブルテレビ

### (2) 生物多様性と男女共同参画に関わる学習会・研修会 -

- ① 学習会「生物多様性とわたし」 知多市市民活動センター 5/11
- ② 鑑賞会「ホテルをみよう」 阿久比町白沢グランド 6/23
- ③ セミナー参加「親子で考える環境問題」 名古屋大学 8/1
- ④ 研修会「生き物からのメッセージ」 半田市勤労文化会館 8/30
- ⑤ 視察研修会「ビオトープと外来生物」 東海市立船島小学校・新川・ 9/13
- ⑥ 他団体への参加「生物多様性と男女共同参画」 ウィルあいち 9/26
- ⑦ みちの会交流事業 名古屋市・知多地域5市5町の「議員と語る会」  
「COP10と市町 わたしたちの取り組み」 知多市勤労文化会館 10/15

### 地域開発みちの会

昭和62年発足。名古屋市・知多地域の女性によって自主的に結成。会員は愛知県主催の「地域婦人問題開発研究会」・「男女共同参画社会支援セミナー」(平成8年～)の修了者。現在会員は90名。

会の目的は、女性の資質と地位の向上を目指すとともに、社会参画を促進し、地域社会の発展に寄与することにあります。地域に根ざした男女共同参画社会を目指し、時宜に応じた目標とテーマを決め、学習と実践活動を重ねてきました。

みちの会 <http://michinokai.net/>